

## はじめに

わたしたちは、これまで、毎日のくらしでこまることや不安をなくし、くらしをよくするために、ほかの地いきの人々と協力し合うことや、そのためのしくみが大切なことを学びました。

また、交流センターやそう合体育館などのしせつが町のくらしにとって大切なものであることや、それらをつくるために、<sup>ちよう</sup>町や<sup>どう</sup>道は地いきの人々の<sup>ねが</sup>願いをもとに、計画を立てて仕事を進めていることを学びました。



月形町役場



月形町議会



### 昭和10年ころの月形

明さんたちの学級では、「わたしたちの地いきが今のようになるまでには、昔の人たちも、くらしをよくしようとして、苦心したのではないか。」「昔の人は、食べ物や飲み水などの心配はなかったのだろうか。」などのぎ問が出ました。先生は2まいの写真を見せてくれました。それは、昔の月形の写真と今の月形の写真でした。

「うわあ、こんな町だったのか。」と明さんはおどろいていました。

みんなで話し合って、「わたしたちの町が、今のようになるまでに、どんなことがあったのか。わたしたちの町は、どのようにしてひらかれたのか。」を調べてみることにしました。



昔の月形はどんな様子だったのかな？

わたしたちは、月形町の<sup>れきし</sup>歴史について調べるために、月形<sup>かぼとほく</sup>樺戸博<sup>ぶつかん</sup>物館を見学しました。

## (1) 大昔の月形

### 大昔の人たち

月形町には、何千年も昔に人がいたことがわかっています。  
まるやま ゆき せいぼえん  
円山や雪の聖母園、北農場のあたりから、大昔の人が使っていた石器や土器のかけらが見つかったからです。大昔の人は、けものや魚をとったり、草や木の実を食べていたのではないかと考えられています。

住まいのあとは見つかりませんが、晩生内おそきないに人が住んでいたことはわかっています。水害が多かったので、時々がやって来ては、くまやしかなどのえものをとっていたのではないかと、とされています。



かば と はくぶつかん  
月形樺戸博物館



しゅうち かんけんせつち ちようさ  
集治監建設地の調査の様子

## (2) 北海道の<sup>かいたく</sup>開拓

### えぞ地

昔、北海道はえぞ地とよばれ、わずかな人々しか住んでいませんでした。広い土地には、林や森がたくさんあり、川や海には、魚がたくさんいました。そこでは、アイヌの人々が川でサケをとったり山で山菜<sup>さんさい</sup>をとったりして、自然<sup>しぜん</sup>を大切にしていた生活をしていました。月形の昔の地名「スベツブト」はアイヌ語で「本流と支流<sup>し</sup>の重なる場所」という意味です。

また、そのころロシアの人たちは、動物の毛皮<sup>けがわ</sup>などを<sup>もと</sup>求めて、しばしばえぞ地へやってきました。

## ほっかいどうかいたくし 北海道開拓使

政府は日本を強く豊かな国にするため、北の守りをかためるとともに、えぞ地を開拓しようとなりました。

明治2（1869）年、政府は北海道開拓使（今の道庁）をつくり、佐賀藩の殿様だった鍋島直正を長官（今の知事）にしました。

えぞ地は北海道とよばれるようになりました。

## しゅうじん 囚人たち

政府は、明治10（1877）年におこった西南戦争のあと、政府に反対する大ぜいの人々を、きびしくばっしょうと考えました。そこで、北海道に国立の監獄をつくり、この人たちを入れることに決めました。政府に反対する人たちを遠い北海道にとじこめること、北海道を開拓するために働かせること、監獄を出た後も北海道に定住させること、この3つを目的としていました。

### (3) 樺戸集治監（樺戸監獄）と月形

## きよし 月形潔と町の名前

政府の命令を受けた月形潔は、北海道のあちこちを調べて

監獄<sup>かんごく</sup>を建てる場所を探しました。そして、後ろにけわしい山々<sup>かばとれんざん</sup>（樺戸連山）と、目の前に深く冷たい石狩川<sup>いしかりがわ</sup>があるスベツブト（今の月形）を選びました。囚人<sup>しゅうじん</sup>がにげ出しにくく、そのうえ石狩川<sup>いしかりがわ</sup>を利用して他の地いきと行き来しやすい場所だったからです。



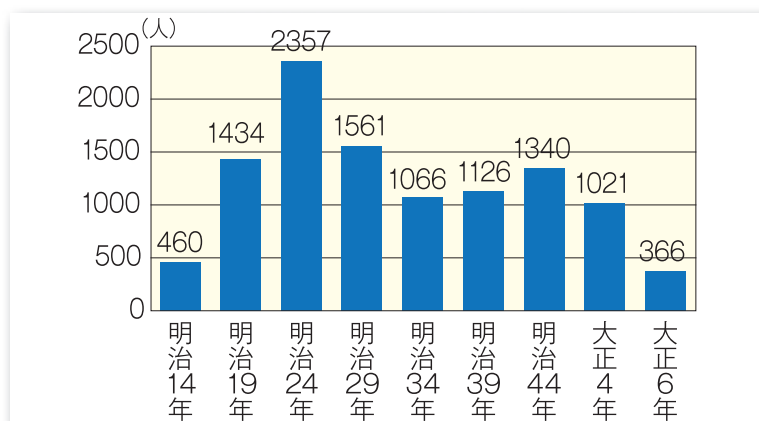
月形<sup>つきし</sup> 潔

明治<sup>めいじ</sup>14（1881）年、北海道で最初の集治監<sup>さいしよ しゅうち かん</sup>（監獄<sup>かんごく</sup>）ができ、月形<sup>つきし</sup> 潔<sup>しよだい</sup>が初代の典獄<sup>てんごく</sup>（集治監<sup>しゅうち かん</sup>の責任者）になりました。

「月形」という町名は、この月形<sup>つきし</sup> 潔<sup>きよし</sup>の名前をとったものです。



かばと かんごくほんちようしゃ  
樺戸監獄本庁舎



囚人数のうつりかわり

## 月形村のたん生

月形に集治監ができると、初めは500人ほどの囚人が入れられていました。集治監が整備されるにつれて、1,500人以上になることもありました。

この中の人たちには、人の命をうばったり、他人の財産をうばったりした人ばかりではなく、政府の考え方に反対した人も大ぜいいました。

集治監ができると、囚人のほかに、看守やその家族も月形に住むことになりました。そのため、店や家、倉庫などをつくる人や、さまざまな商人などが集まり、市街地（市北・市南）には囚人のほかに2,000人近くの人が住むようになりました。どろんこの道を行く馬上の看守、重い荷物をひっぱる馬車、元気よく行き来する男たち、広い道路、丸太でつくられた家々。そのころは、美唄や岩見沢よりにぎやかな村だったそうです。

## (4) 囚人たちの仕事

### 土地をひらく

囚人たちの一番の仕事は、あれ地を切り開いて道路をつくり、人が住めるようにすることでした。

木を切りたおし、根をほり出し、畑をつくる仕事をしました。集治監のできた年には、約1haの土地を畑にして、自分たちの食べ物をつくりました。

次の年には、須部都川の南の森林を切り開いて畑を耕し、冬は雪の上で木を切りたおすなど苦しい作業をして、約50haの農場をつくりました。これが今の知来乙です。こうして、囚人たちは南耕地・農事会・北農場へと農地を広げていきました。

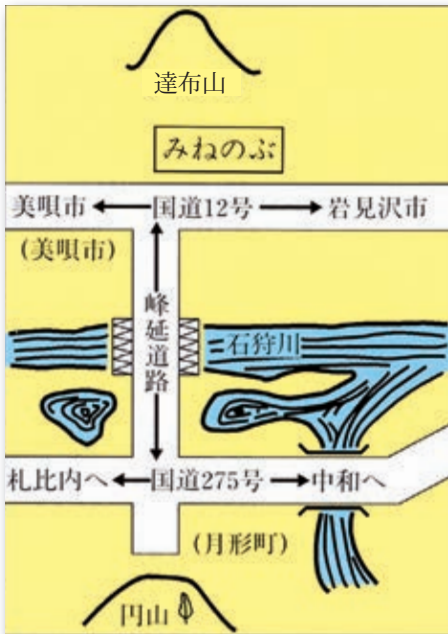


開拓当時の月形

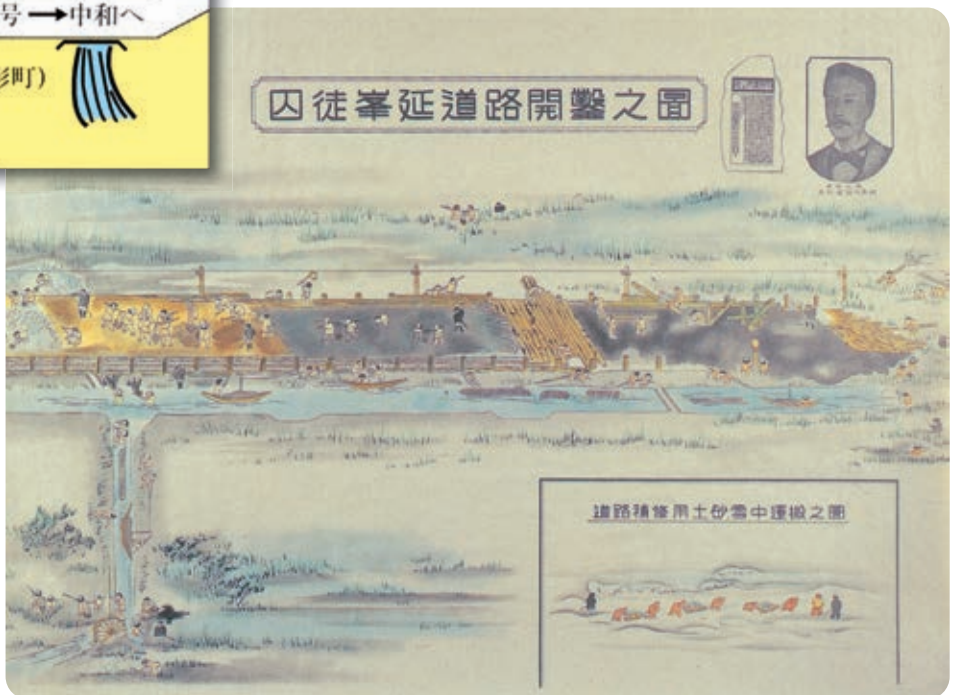
# 道路づくり

囚人たちは、農地を広げるだけではなく、木を切りたおしたり、ぬまをうめたてたりしながら、道路づくりの仕事もしました。

## 囚人たちが作った峰延道路



月形から峰延までの道路（峰延道路・樺戸道路）は、明治19（1886）年から工事を始め、明治20（1887）年に開通しました。ここは一面のしっ地なので、道路の両側にみぞをほり、水はけをよくし、その上に丸太をし



みねのぶ  
峰延道路づくり

きつめ、土やじゃりをかぶせて道路をつくっていきました。

仕事は、夏も冬も続けられ、とてもつらく苦しいものでした。この峰延道路（樺戸道路）は、月形から峰延までほとんどまっすぐにつくられています。月形の円山と三笠の達布山のちょうど上で火をたき、のろしをあげて、それを目標にして一直線に丸太をしきつめて道路にしました。

こうして、峰延道路（樺戸道路）のほかに、当別の方へ向かう道路や、札比内の方へ向かう道路、旭川の方へ向かう道路（今の国道12号）などもつくりました。

## そのほかの仕事

囚人たちの中には、いろいろなぎじゅつを持っている人がいたので、農地や道路づくりのほかにもいろいろな仕事をしました。

札比内方面に、たくさんあったくわの木に目をつけ、くわ畑をひらき、かいこを育てて糸をとりました。また、やなぎの木を利用して、こうり（収納箱）をつくったり炭を焼いたりしました。囚人たちが生活で使うものは、できるだけ囚人たちの手でつくるようにしました。

また、鍛冶・大工・ちょうこくなどの分野で、すばらしいぎじゅつを持った人たちもいました。この人たちは、橋をつくったり家を建てたりする仕事もしました。今でも残っている北漸寺や円福寺は、囚人たちによって建てられたお寺です。



ほくぜんじ  
北漸寺



えんぶくじ  
円福寺



しゅうじんぼち  
囚人墓地

## (5) しゅうじんぼち 囚人墓地

北海道以外から来た囚人たちにとって、月形の気候はきびしいものでした。そまつな食事やはげしい労働のため、病気にかかったり体が弱ったりして死ぬ人もいました。こうした人たちは、しゅうちかん 集治監 (かんとく 監獄) から出られないうちに、ふるさとを思いながら死んでいったものと思われます。

このような人たちをまいそうしてあるのが、しゅうじんぼち 囚人墓地です。  
しゅうじんぼち 囚人墓地は、みなみこうち 南耕地のしのつやま 篠津山れい園の中にあり、1,022人の囚人の墓がここに 있습니다。

## (6) <sup>はいかん</sup> 廃監

<sup>たいしょう</sup> 大正8（1919）年1月、人々のために多くの仕事をし  
て、私たちの町のもとをつくりあげた<sup>しゅうじん</sup> 囚人たちは、<sup>あばしり</sup> 網走の<sup>かん</sup> 監  
<sup>ごく</sup> 獄へとうつされました。役目を終えた<sup>かばと</sup> 樺戸<sup>かんごく</sup> 監獄は<sup>はいかん</sup> 廃監となり  
ました。

<sup>はいかん</sup> 廃監から64年後の昭和58（1983）年4月、<sup>しゅうちかん</sup> 集治監  
<sup>かんごく</sup>（監獄）とともに<sup>はってん</sup> 発展してきたこの月形町に、新たに<sup>けい</sup> 月形刑  
<sup>むしょ</sup> 務所がおかれました。



<sup>けいむしょ</sup> 月形刑務所